

港区子ども・おとな・地域 みなトーク事業

令和6年度 実施報告書

開催日時：令和7年2月1日（土）
午後1時30分～午後4時

テーマ： 広げよう、友だちの輪！ つながろうMINATO

開催場所：港区子ども家庭総合支援センター

目 次

- | | |
|--|---------|
| 1 開会の挨拶 | P 1 |
| 2 アイスブレイク「頭の中にある“自分”を探してみよう！」 | P 2 |
| 3 みなトークタイム
「広げよう、友だちの輪！つながろうMINATO」 | P 3～11 |
| 4 閉会の挨拶 | P 12 |
| 5 参加者からのアンケート | P 14～22 |



本事業の目的

子どもと子育て当事者、地域の子育て支援者など世代を超えた多様な人が集い、対話の場を設けることで、世代を越えた多様な人々の地域ネットワークを構築し、港区の子育て・子育て環境の更なる向上を目指しています。

※本報告書に掲載している写真の一部は、個人を特定することができないよう処理を行っています。

1 子ども家庭支援センター 石原所長から開会の挨拶

参加者が集まった会場の様子を見て「多くの方が興味を持ってこの事業に参加していただいたことを嬉しく思っています。世代を超えた懇談会を開催することで、港区が子どもにとって過ごしやすく、子育てしやすい環境となるよう地域全体で支え合う社会の実現を目指しています。」と話す石原所長。

様々な世代の人が集まるこの機会に、子育て・子育てという視点から地域にどのような交流や機能を求めているのかなど区民の意見を聴くことで、子ども家庭支援センターとして、より良い子育て・子育て環境の整備に向けて積極的に取り組んでいきたいという姿勢が伝わりました。



2 アイスブレイク 「頭の中にある“自分”を探してみよう！」

アイスブレイクとは？

話し合いなどの場でリラックスして話せるよう、本題に入る前に簡単なゲームや雑談でコミュニケーションを取り、緊張をほぐす方法のこと

「自分が考えていること」を絵の中に書き込み、それをもとに自己紹介を行いました。自分の頭の中にあることを視覚化することで、自分が本当に好きなものややりたいことに気づくことができます。

完成した絵を見せながら自己紹介を行い、和やかな雰囲気の中で自然に交流を深めることができました。

自己紹介後さらにリラックスできるように、手軽にできる緊張を和らげるツボ押しを紹介し、みんなで実践してみました。



頭の中にある“自分”を探してみよう！

港区子ども・おとな・地域
みなトーク事業

例えば…

- ・好きな食べ物
- ・好きな色
- ・今、夢中になっていること
- ・楽しみにしていること
- ・2025年挑戦したいこと

など、自由に書いてみてください！



3 みなトークタイム 「広げよう、友だちの輪！つながろうMINATO」

参加者 30名 【内訳】：ファシリテーター 6名 子育て中の人 5名
地域の子育て支援者 6名 学生 10名
その他 3名

1) テーマ「広げよう、友だちの輪！つながろうMINATO」について

少子高齢化や核家族化の進行に伴い、地域住民同士の交流の機会が減少しています。かつては、ご近所の方や商店の方々と日常的に挨拶を交わしたり、立ち話をしたりする光景が見られましたが、近年ではそのような場面が少なくなっています。

子どもたちが健やかに成長し、安心して子育てできる環境を整えるためには、地域全体で子どもや子育て家庭を見守ることが重要です。そこで、地域全体で子どもや子育て家庭を支える環境の構築について話し合いました。

2) 進め方について

地域交流をテーマに、7名程度（ファシリテーターを含む）でグループディスカッションを行いました。

より多くの人と話せるように、5つのグループに分かれて15分ごとにメンバーを入れ替えながらディスカッションを行いました。また、メンバーを入れ替えても、学生・子育て中の人・子育て支援者と様々な世代の人と話せるようにグループを構成しました。

最後に、初めのグループへ戻り、話し合った内容や気づき、共有したいことを整理しグループごとに発表を行いました。

みなトークタイム 4つの約束

1. 限られた時間をみんなで分け合いましょう。
2. 他の人の発言に耳を傾け、最後まで聴きましょう。
3. 相手のことを否定せずに、楽しく明るい雰囲気でお話ししましょう。
4. この場で話した内容は、SNS等で発信しないでください。

3) みなトークタイム

まず初めに、地域の人たちとの交流があるかなど地域交流の現状について話し合いました。

参加したことがある地域イベントや、どのようにして地域の情報を手に入れているかなど身近な話題から、地域交流の課題や地域の人がつながっていくための方法、効果的な情報発信など、より具体的に話を進めていきました。

途中で休憩を設けましたが、その間もグループの垣根を越えた活発な意見交換が続く様子が見られました。

最後は、最初のグループに戻り、話し合った内容を整理・共有しました。様々な立場の人と対話を重ねる中で感じたことや、地域交流を深めるためのポイントについてまとめ、区に実施してほしいイベントなど具体的な提案も出てきました。



各ラウンドで出た意見と グループでのまとめ

ワールドカフェ方式での話し合いのため、ラウンド1はグループメンバーで話し合っていますが、それ以降はメンバーを入れ替えて話し合っています。



黄グループ ファシリテーター 立石 かほ里

● ラウンド1で出た意見

- ・ 同年代の交流だけでなく、異なる年代の子育て家庭との出会いが長期的な関係構築につながったことがある。
- ・ マンション内での日常的な挨拶から会話が生まれ、関係が深まっていくという経験があった。笑顔での挨拶や相手をニックネームで呼ぶなど親近感を育むコミュニケーションの取り方・工夫も必要だと思う。
また、ドッジボールなど共通の目的を持って活動することで自然な交流が生まれる。
- ・ 地域の情報収集については、公園の掲示板、広報みなど、K i s sポート（港区スポーツふれあい文化健康財団）など、様々な媒体が活用されている。

● ラウンド2で出た意見

- ・ 学校では地域清掃や防災訓練を実施しているが、既存の知り合い同士で固まる傾向がある。一方、お台場のボートレース地域対抗戦や三田地区の「まちぐるみ運動会」など、世代を超えて参加できる取組も存在する。
特に「まちぐるみ運動会」には1,000人以上の参加があり、年代に応じた競技やパン食い競争で美味しいパンを採用するなど、参加意欲を高めるよう工夫がされている。こういった取組を増やしてほしい。
- ・ 既存の住民と新しく転居してきた住民の交流が少ないという課題に対しては、「手を差し伸べてくれる人」の必要性がある。
- ・ また、参加者が「お客さん」として終わるのではなく、企画側として参加できる機会を求める。SNSでの交流は無機質になりがちなため、実際の地域とのつながりを望む声も多い。

● ラウンド3で出た意見

- ・ 港区のSNSでの情報発信は実際に多くの人に届いており、今後は学校を中心とした取組を展開し、参加者が一緒に活動できる楽しいイベントの企画に取り組んでほしい。
- ・ 効果的なイベント運営のポイントとしては、単発ではなく定期的な開催が望ましく、講師やゲストを招くなど魅力的なコンテンツを提供してほしい。

- ・ 季節に応じた企画（餅つき大会など）の実施や、参加特典や記念品の提供が参加意欲へつながる。
- ・ 港区の特徴である多国籍の環境を活かした国際交流の機会創出も求められている。例えば、大使館イベントでは学生向け内容の充実や、海外からの旅行者を地域で受け入れ、中学生が英語で地元を説明する機会を設けるなど。
- ・ これらから、継続性のある企画と参加者の主体的な関わりを促す仕組みづくりが重要である。

● まとめ

- ・ 現状の課題としては、中学生が親や教師以外の大人と交流する機会が限られていて、個人では実現できない活動が多く存在している。
デジタルだけでなく、紙媒体での情報発信の必要性も指摘され、参加対象となる世代に合わせた開催日時の設定が求められている。
明確な目的とテーマ設定による参加意欲の向上、継続的な交流機会の確保、共通の興味や関心を持つ人々が集まれる場の創出が、多世代交流の活性化につながる。
- ・ 以下の3つの提案を通じて、港区の特徴である多様な出会いの機会を活かした地域交流の活性化が期待される。
 1. 学校中心の取組：学生が主体となったイベント企画 ・ 文化祭での地域交流 ・ 給食を通じた世代間交流 ・ 受験情報や親子の経験談共有 ・ 参加特典としての親子向けプレゼントの提供
 2. 海外交流の促進 ・ 異文化理解の機会創出 ・ 保護者による出身国の紹介 ・ 離乳食や食文化についての情報交換 ・ 日本との共通点や相違点の学習
 3. 子育て支援活動の充実、託児付きイベントの増設、健診などの必須行事と連動したイベント開催が望まれる。



赤グループ ファシリテーター 美土路 容子

● ラウンド1で出た意見

- ・ 図書館など普段からよく使う施設で行われているイベントだと参加しやすい。
- ・ 年齢関係なく参加できるドッジボールなどのイベントを企画すると、様々な世代で楽しく交流することができる。

● ラウンド2で出た意見

- ・ 港区のボランティア活動で知り合いの輪を広げると、世代を超えた交流が可能になる。
- ・ 活性化している町会では、LINEアプリを活用して情報を発信し、バスツアーや新年会、お祭りなど、地域（お寺など）と協力した様々なイベントを展開している。
- ・ 現在の交流の課題としては、町内会により活動の活発さに差があり、昔ながらの派閥などが存在して新参加者が入りづらいということがある。

● ラウンド3で出た意見

- ・ イベントがあることは把握していても、子どもを預けて参加することができず、ちゅうちょすることもある。
- ・ 中学生と話す会（家族や大人以外と話す機会）やトーク・フォークダンスなどを行うことで世代を超えた交流のきっかけを創出することができる。

● まとめ

イベント成功の鍵は「子ども主役・子ども中心」とした企画づくりで、保護者の協力を得やすくなり、地域の人々も明確な目的意識を持って参加できるようになる。効果的なイベント運営には、参加者が必要な情報を簡単に入手できる環境整備、アクセスしやすい開催場所の確保、継続的な開催による信頼性の構築という三つの基本要素が必要である。

また、日常とは異なる「特別感」のある活動を提供することで参加する楽しみが生まれる。そして、固定の場所で実施することで「ここに来れば新しい発見や楽しみがある」と誰も身近に感じる交流の場となる。これらの要素に配慮することで、多世代が自然に交流できる場が生まれ、地域コミュニティの活性化につながる。

青グループ ファシリテーター ^{チエ} 崔 ダウン・シュテファニー・レーツ

● ラウンド1で出た意見

- ・ 地域のイベント情報は港区公式SNSや地域の町会掲示板、学生は学校からのお便り、広報みなと等で得られている。
- ・ 地域のお祭りに参加しても終了後すぐに解散となり、深い交流には至らないことが多く、継続的な交流に発展しにくい。
継続的な交流につながる仕組みづくりが必要である。
- ・ 集合住宅内のイベントへの参加率が低い傾向にあり、近所付き合いの減少が目立つ。
- ・ 子育て世代は施設利用が中心になりがちで、近隣住民との関わりが少ない状況で町会活動の担い手確保など、従来の地域活動の継続が難しくなっている。
- ・ 世代間交流を促進するためには、学生の参加を積極的に取り入れることが効果的である。

● ラウンド2で出た意見

- ・ 子どもが小さい時期は交流機会が多いものの、子どもの年齢が上がるにつれて勉強や部活等で集まりにくくなっている。
- ・ 世代によってはイベントに参加できる時間帯が異なるので配慮が必要。
例 子育て世代：午前中（特に乳児の保護者）、学生・会社員：土日、自営業者：平日
- ・ 明確な目的（例：子育て）を持ったイベントの企画が求められていて、多世代で企画段階から参加できる仕組みづくりをしていくと良い。
託児サービスの提供があれば子育て世代の参加率も上がる。また、単発で終わらない継続的な交流の仕組みづくりによって持続的な交流が可能となる。
- ・ 各世代に適した情報発信手段の活用も重要であり、掲示板やチラシなどアナログな情報発信の継続も必要である。

● ラウンド3で出た意見

- ・ 運営する側は単発ではなく、継続的な交流につながる様に工夫する必要がある。子どもの教育につながる要素やアニメ、ゲーム、スポーツなど多世代が共有できる分野、日本の伝統文化体験など世代別に楽しめる仕掛けが効果的である。
- ・ イベント開催場所は必要な備品が整い、清潔で信頼できる施設であることやアクセスのしやすさを考慮する必要がある。

- ・ どの世代でも参加しやすい土日開催が望ましい。
- ・ 現状ではイベントの質は高いものの、実質的な交流機会は少なく、特に中学生の意見を反映する場が不足している。
- ・ 共働き世帯は子ども中心のイベントに参加する傾向があり、大人同士の交流を持つ機会や時間が少ない。
- ・ 世代を超えた相互理解を促進し継続的な地域のつながりを形成することで、新たな知人関係を築き、子育て世代の交流環境を充実させることができる。

● まとめ

- ・ 世代間交流を促進するイベントが必要である。
例としては、フォークダンスのように相手をどんどん変えて対話をするトーク・フォークダンスや世代別チーム対抗クイズ大会、ランダムチーム編成のボートレース大会などが考えられる。
- ・ 中学生主体の企画を実施することで、世代交流が活発になる。
具体的には、企画・運営まで全て中学生が行う主催側イベントや、学校の授業の一環としてのイベント企画などを推進することが効果的である。
- ・ 参加者への配慮を工夫したイベントがほしい。
予防接種や検診など必須の用事と組み合わせたイベントや、小さな子どもがいる家庭でも参加しやすい環境が整備されている場所でのイベント開催が望ましい。
- ・ 中高生など子どもの主体性を尊重し、世代を超えた交流の促進、継続的な関係づくりの支援を行うことが大切である。



緑グループ ファシリテーター シャ謝 ケイ馨儀

● ラウンド1で出た意見

- ・ 生活に密着しているイベントやサロンの充実が必要である。
特に育児経験の少ない母親の不安解消につながる交流の場が求められている。
- ・ 子どもを預けてゆっくり参加できるイベントを増やしてほしい。

● ラウンド2で出た意見

- ・ 同じ地区在住でも交流が少ない傾向があるため、地区ごとの交流会開催が求められ、テーマを細分化した小規模な交流会を実施することで、参加者間の継続的な関係構築につながっていく。
- ・ 参加者の興味に合わせた話題提供を工夫し、継続的な交流の促進を図ることが重要である。また、体験型・実践的な活動を含むイベントを企画することで、よりたくさんの人の参加を促進できる。

● ラウンド3で出た意見

- ・ 多世代が参加できるようなテーマ、例えば世代を問わず参加できる運動関連やゲームなどを取り入れたイベントを区が企画して開催すると多くの人が興味を持って参加してくれるのではないかな。
- ・ 新しく転居してきた子育て世代の人たちが積極的に参加できるように、同じ子育て世代と育児経験者との情報共有の場や一時保育サービスを活用できるイベントを設け、参加を促すと良い。

● まとめ

- ・ 住民の多様なニーズに応える交流の場を創出することで、多世代・多文化の交流が生まれる。
例えば、海外の友好都市との交流で自分の地域を案内したり、海外からの転入者などの外国人住民との交流会を開催したり、港区ならではの特色を活かしていくのがイベントがあると良い。
- ・ 多くの人に参加しやすい週末を利用し、多世代交流のイベントを開催することで、イベントへの関心や興味へつなげていくことが重要である。
例えば、誰でも参加できる学校の給食試食会などを設けて、交流のきっかけを作っていくことが効果的である。

紫グループ ファシリテーター 宮崎 由美子

● ラウンド1で出た意見

- ・ 台場地区では防災訓練や海辺のゴミ拾いなど、地域のいろいろな人と交流する機会が多くある。
- ・ 子どもが小さい頃はお餅つきなど一緒に参加したが、大人だけではなかなか参加に二の足を踏んでしまう。
- ・ 地域の大人からしてみると、中高生は部活に塾に習い事と忙しそうに見え、イベントに誘うのをちゅうちょする時がある。

● ラウンド2で出た意見

- ・ 子どもを連れてのイベントは会場までのアクセスや、子ども用トイレの有無、ベビーカーで入れるかなどが気になってしまう。
逆にそれらがクリアになっているとわかるイベントには参加しやすい。
- ・ イベントや交流する機会の情報をどこで得ることができるのかわからず困っている。
- ・ 地域の人が交流するイベントや機会への参加を選ぶ理由は、コンテンツ、場所などあるが、やはりコンテンツが一番の決め手だと思う。

● ラウンド3で出た意見

- ・ 子どもが小さいときは自分に余裕がなく、情報を取りに行く余裕もなかった。今は、SNSでイベントの情報を得られて便利になったと思う。
- ・ 年齢によっては、イベントや交流する機会の情報を得るのに紙媒体のほうが情報を入手しやすい。

● まとめ

地域交流に有効なイベントの意見が多く出た。

世代を問わず好きなアニメについて話をする交流会、地域の人を招いた学校給食試食会、料理が得意な人を講師とした料理教室、地域の大人が先生となった無料勉強会といった興味やそれぞれの状況を的確に捉えたイベントの開催が有効的である。加えて保育園や学校を会場とする子どもの生活の場で開催されるイベントであると参加しやすい。その際、区全体ではなく、地域ごとに対象者を限定して身近な地域交流を促進することができるのではないかと思う。

また、イベントの周知について、デジタルよりも紙媒体の方が目に入ることが多く、ポストインによるチラシ配布や区施設の掲示板などの活用が挙げられた。

4 港区子ども家庭支援部 中島部長から閉会の挨拶

「港区子ども・おとな・地域みなトーク」は、今回で3回目の開催となります。このイベントは毎年1回実施されており、皆様から貴重なご意見をいただき、区が今後の施策に反映させていくことを目指しております。

本日は、イベントを通じて地域とのつながりや、人々がどのように協力し合うかについて、実現可能性の高いご提案を多くいただけたと感じております。

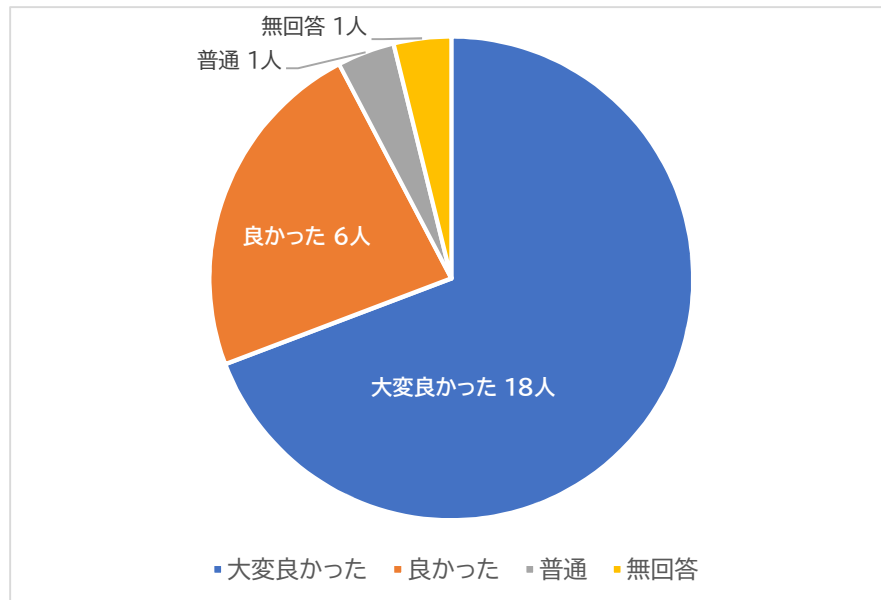
港区では、子どもを中心にした施策を強化するという方針のもと、令和6年度から「子ども会議」をスタートしました。これまでは大人主導で地域の課題や施策を考えていましたが、今後は「子どもが中心」という視点を大切に、子どもたちの思いや成長の過程を考慮した取組を進めてまいります。

さらに、その周囲には子育て中の方々や、子育てを終えた後に支援活動を行っている方々も多く、様々な意見を伺いながら、港区を一層盛り上げていきたいと考えております、と締めくくりました。



5 参加者アンケート結果

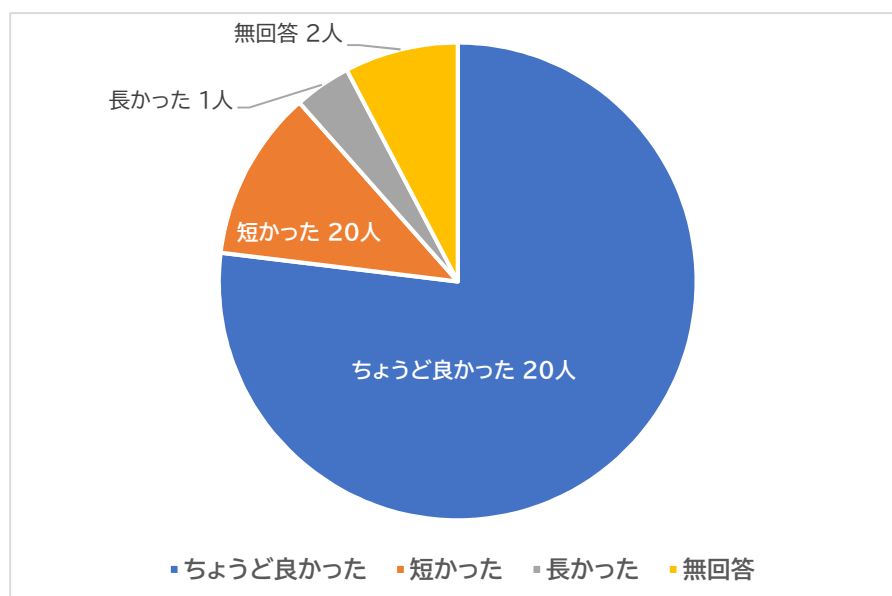
1) アイスブレイクの内容はいかがでしたか。



＊どんな点が良かった・良くなかったか、ご記入ください。

- 肩書きだけでなく、今の気持ちや興味があることなど、一歩踏みこんだ自己紹介が楽しかったです。
- 図を描いてから、お話しするのが良かったです。
- 全員リスペクトの雰囲気最高でした。
- ユニークなアイスブレイクだと思いました。もう少しひとりずつ深掘りできたらと思います。
- いろいろな思いが分かりやすく伝わってよかった。自分の考えていることを書き出すのが面白く、緊張がほぐれました。
- 参加者の皆さんが前向きで素晴らしいと思いました。
- 記入例が大変分かりやすく、内容も簡単に書けて、とても話しやすかったです。
- 良いアイスブレイクの時間で頭の中を描くことで頭が整理されて、次の自己紹介もしやすかったです。
- 初めて取り組んだワークは自分のためにもなりました。
- ポジティブなことが思い浮かばず、少し苦勞しました。
- 親世代の人、子育て世代の人などのいろいろな世代の方とたくさんお話ができてとても楽しかったです。
- 他の人のことを知ることができたし、自己紹介しやすかったです。
- 自然と周りとのコミュニケーションがしやすい空間になりました。

2) アイスブレイクの時間はいかがでしたか。

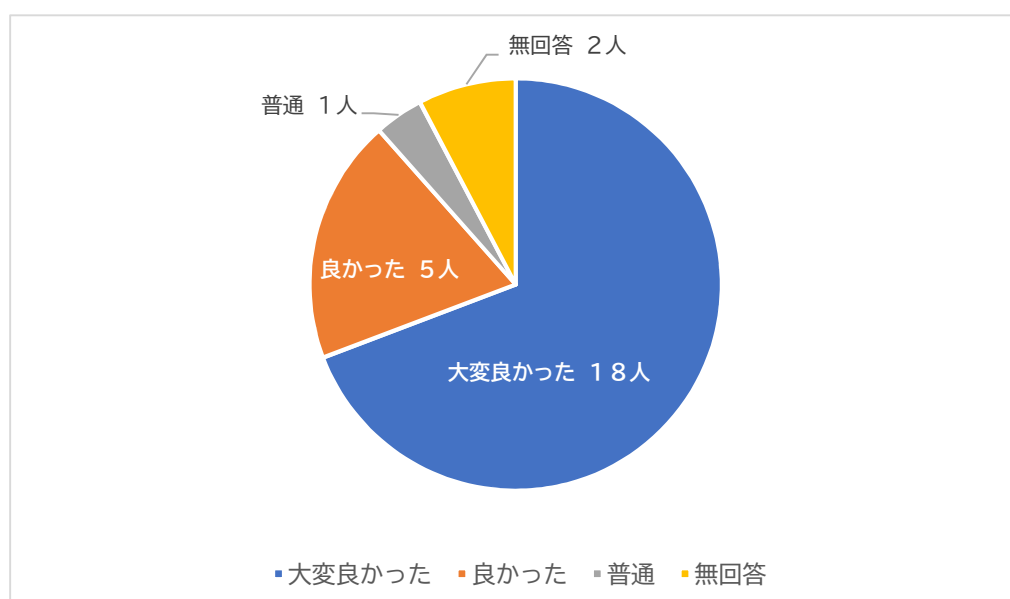


*時間について、

ご意見がありましたらご記入ください。

- 自己紹介だけだと話題がなく場が温まりにくいですが、頭の中の絵がありとても良かったです。（特に紙を使い目で確認できた）
- とても楽しくてあっという間に時間が過ぎました。

3) みなトークタイム「広げよう、友だちの輪！つながろうMINATO」の内容はいかがでしたか。

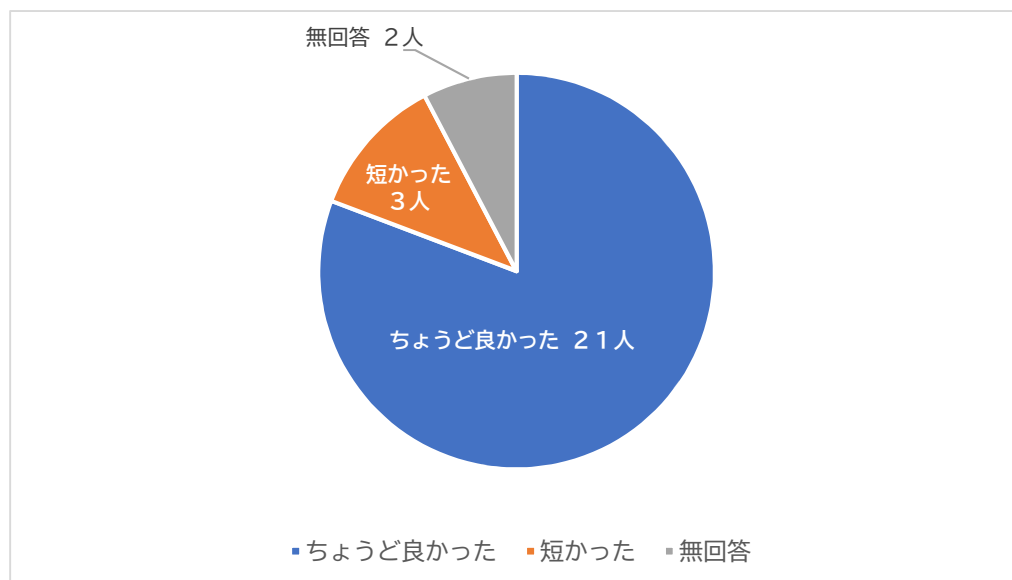


＊どんな点が良かった・良くなかったか、ご記入ください。

- 多くの人の多様な意見がとても参考になりました。
- 行政・区民・企業をつなぐ「みなトーク」これからも続けてほしいです。
- 一度ではなかなか完全燃焼が難しく、二度・三度と参加し様々なご意見を聞けたら良かったです。
- それぞれ思うことをたくさん話せました。
- あまり言葉にすることがないから、みんなの考えていることがよくわかりました。
- いろいろな意見を聞いて、自分の考えも深められ、とても良い機会でした。
- 人との交流、子ども中心の社会でとても良いコンセプトでした。
- 自分の台場地区の学生の方々がいらして、お話が聞けました。良かったら今度「自身の地域」も話せたらな、と思いました。
- 時間が足りないと感じるほど、充実した内容でした。
- 子育てをしたことがある人たちの意見など、自分では思いつかないような意見をたくさん聞けて面白かったです。
- 地域でのコミュニケーションは大変難しい課題です。課題を解決するのはハードルが高いですが、最後には多くのユニークなアイデアが出ました。
- 違う視点で考えられることができました。
- いろいろな世代の方と地域について話すことができて楽しかったです。
- 様々な世代（子育て世代など）と自分とは違う視点からディスカッションできて良かったです。
- 自分が考えていなかったアイデアを知れて、知識がとても深まりました。
- トークテーマがざっくりしすぎていて、最初は何から話して良いか難しかったです。地域交流を大テーマとして、グループトークのテーマはもう少し話しはじめやすい'問い'を置いてもらえると良かったかもしれません。



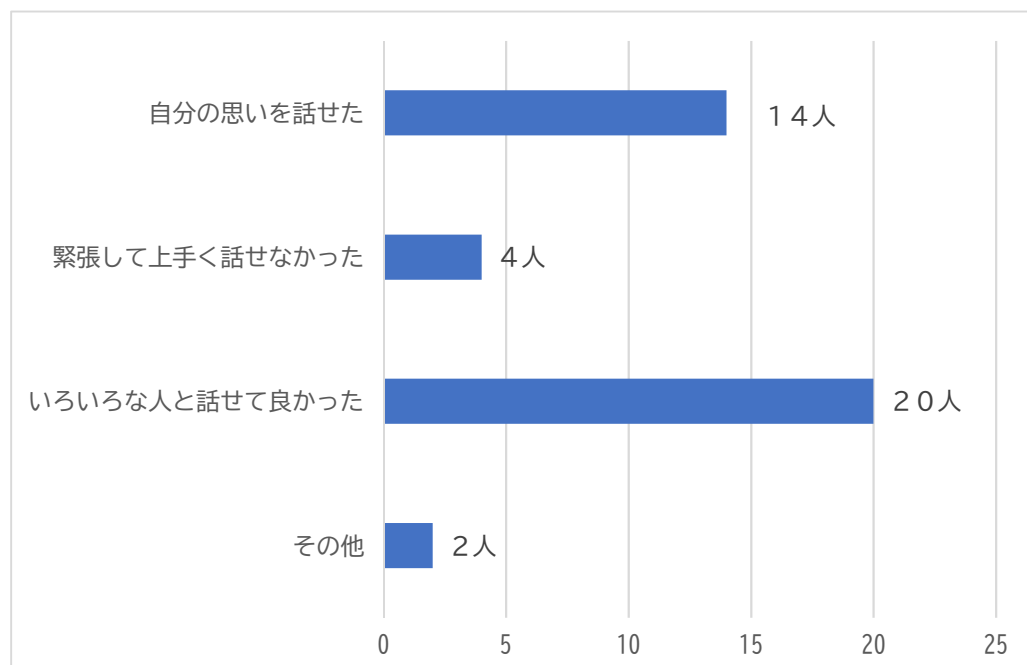
4) みなトークタイム「広げよう、友だちの輪！つながろうMINATO」の時間はいかがでしたか。



*時間について、ご意見がありましたらご記入ください。

- 短く感じるくらい、時間があっという間に過ぎました。
- これ以上の長さは一時保育の子どもが耐えられないのもあるので、今はちょうど良いと思います。
- あっという間でした。
- たくさん話ぐできました。
- 最初は長く感じていましたが、いざ始まるとあっという間でした。
- もう少し意見が言えそうな方がまだいた気がします。
- 話していたらすぐ時間が過ぎてしまったので、もう少し長くてもよかったです。

5) ワールド・カフェ方式（少人数のグループに分かれて、メンバーを入れ替えながら話し合っていく方法）での話し合いはいかがでしたか。（複数回答可）



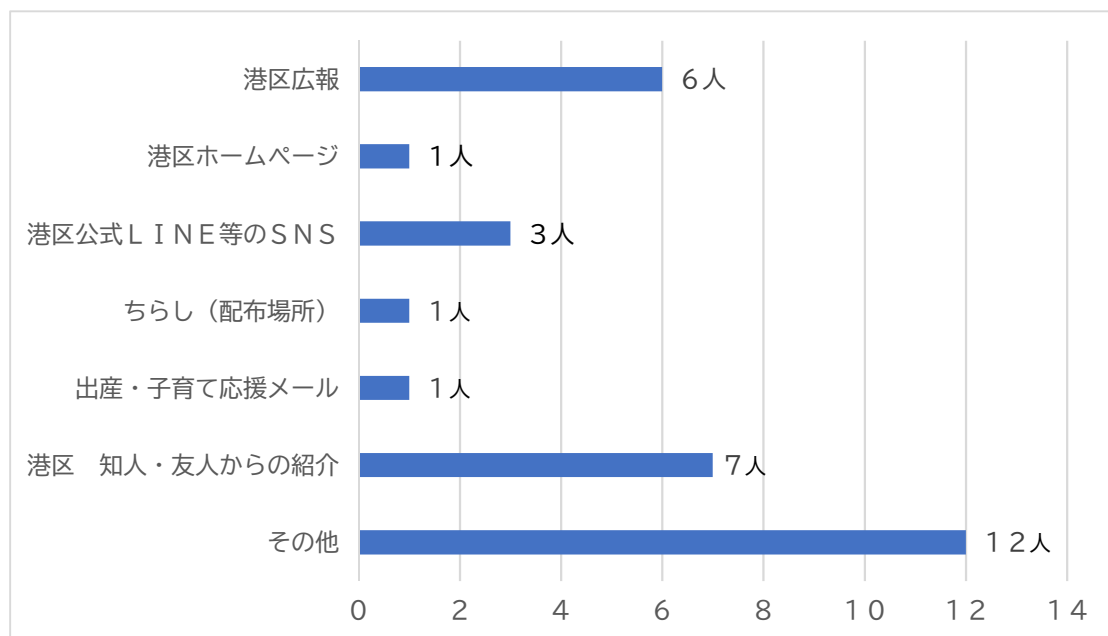
＊ワールド・カフェ方式について、ご意見がありましたらご記入ください。

- いろいろな人と話せて良かったです。
同じ自己紹介をするので、全体向けに1回でも良かったと思います。
- たくさんの方とお話できました。コミュニティ（オフライン）があったらなと思いました。（イベントの告知とか、交流会の告知とか困ったことを投稿できる場所とか）
- 話をする人だけでなく、話を聞く人もしっかり耳を傾けている様子で良い話し合いになりました。
- 最初は緊張してあまり話せなかったけれど、いろいろな人に自分のことや自分の思いを話せました。
- 1グループの人数が多いように感じました。全員の話聞くのに、さらっと発表して終わることがありました。
- ラウンド2、ラウンド3になると初めましてになってしまうので、ちょっとためらいがありました。たくさんの方と話せて良かったです。

6) 今後、トークタイムでとり上げてほしいテーマや話題があればご記入ください。

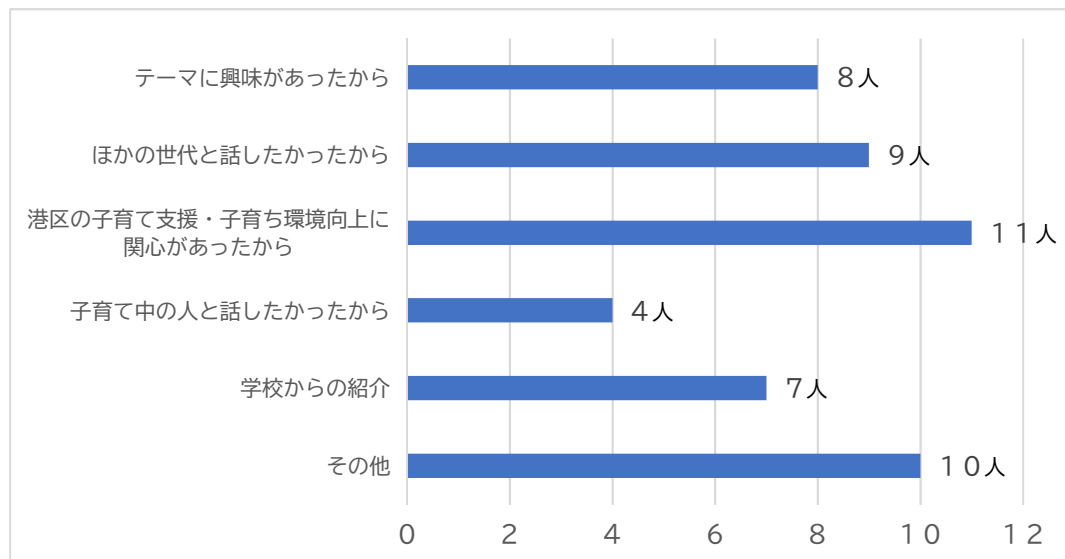
- 学校の現状改善について
- 子ども目線のイベントをお願いします。
- 子育てするママのキャリアを地域で応援してほしいと思います。
- 産後うつ予防・対策
- 楽しんでいること・心が整う方法・平和のためにできることについて。
- 今回のまとめを事前に伝えて、何度も深掘りして何か形として実現できたら良いなと思います。
- 中高生の方が参加できるイベントをやってほしいです。各地域でイベントをするなど。
- 中学生、高校生はどんなことを考えているのか？（自殺する子が昨年より増えていて自己肯定感が低い子が多いのかと思うので…）
- 自然や海外交流などのテーマで取り上げてほしいです。
- 港区民の人がもっと気軽に集まる方法について話してほしいです。私たち学生も気軽に参加したいので、そういうのを話題にしてほしいです。
- さらに深く会話（今回の話題）をできたら良いと感じました。

7) 港区子ども・おとな・地域みなトーク事業の開催をどこで知りましたか。
(複数回答可)



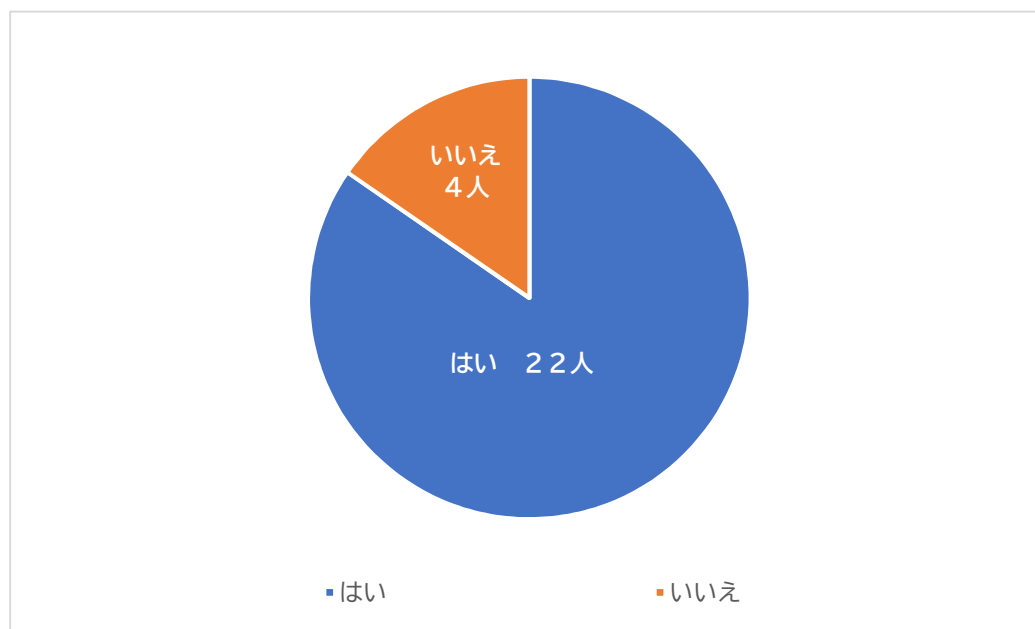
その他：・学校を通じて知りました。

8) 今回、港区子ども・おとな・地域みなトーク事業に参加しようと思ったきっかけは何ですか。(複数回答可)



その他：多方面の方々との交流の機会を持つことで、いろいろな考え方を聞いてお役に立てることがあったらと思い参加しました。

9) 今年度(2024年4月以降)新たに子ども・子育て支援に関わる活動や仕事を始めましたか。営利・非営利を問わず、どんな仕事や活動でも構いません。

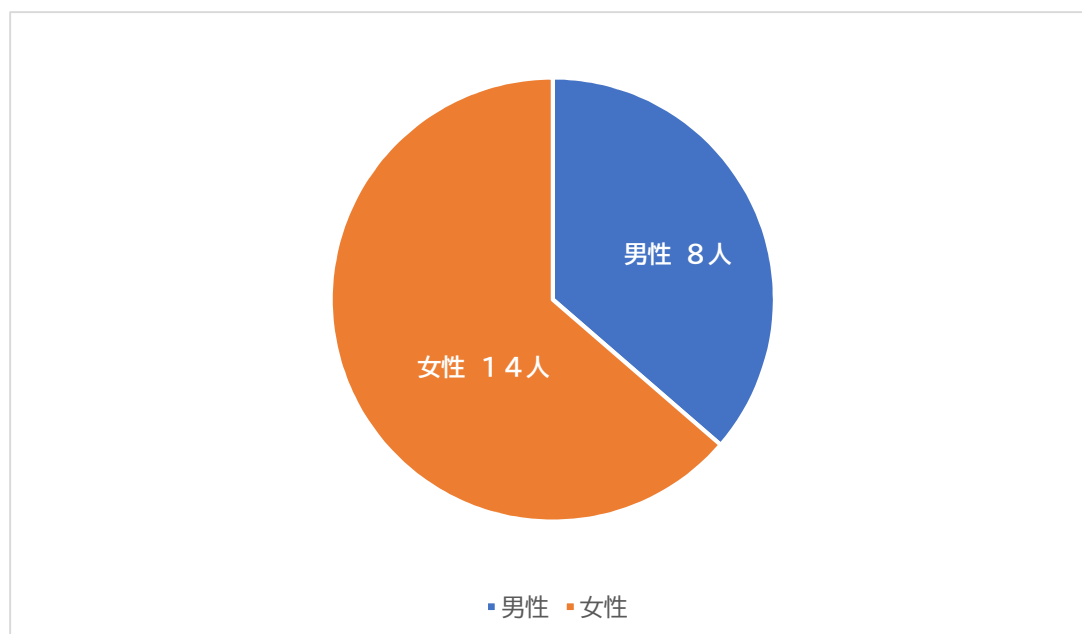


はい：

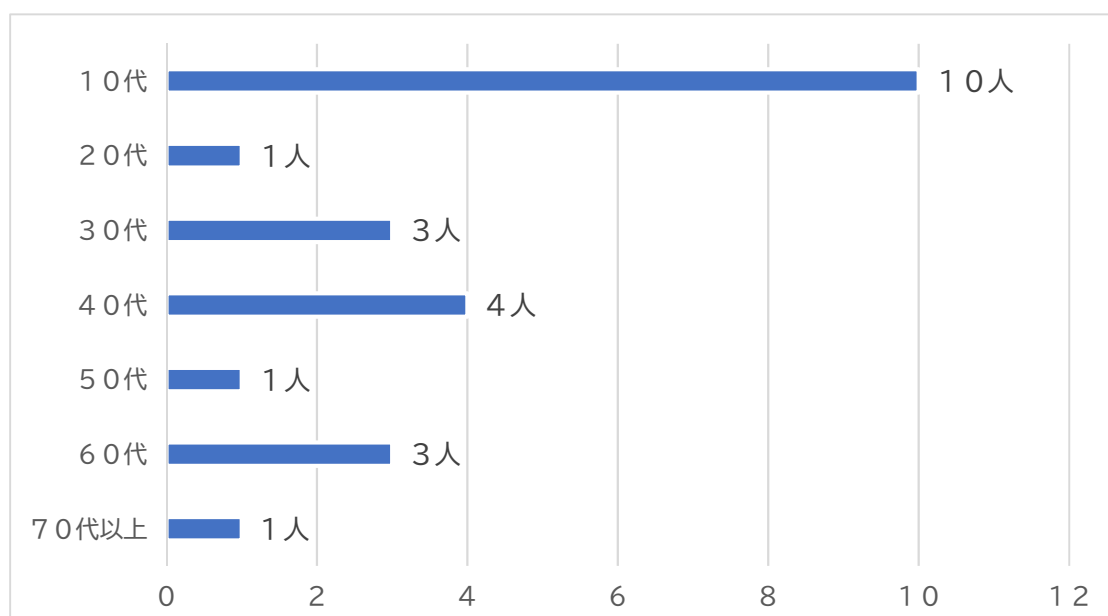
- 電動車いすユーザーの方と親子で交流するイベントを自分で主催しています。
- みんな食堂に参加しました。
- 仕事で外国籍の子ども+親、教員等の相談を受けています。

10) あなたのことを教えてください。(無回答あり)

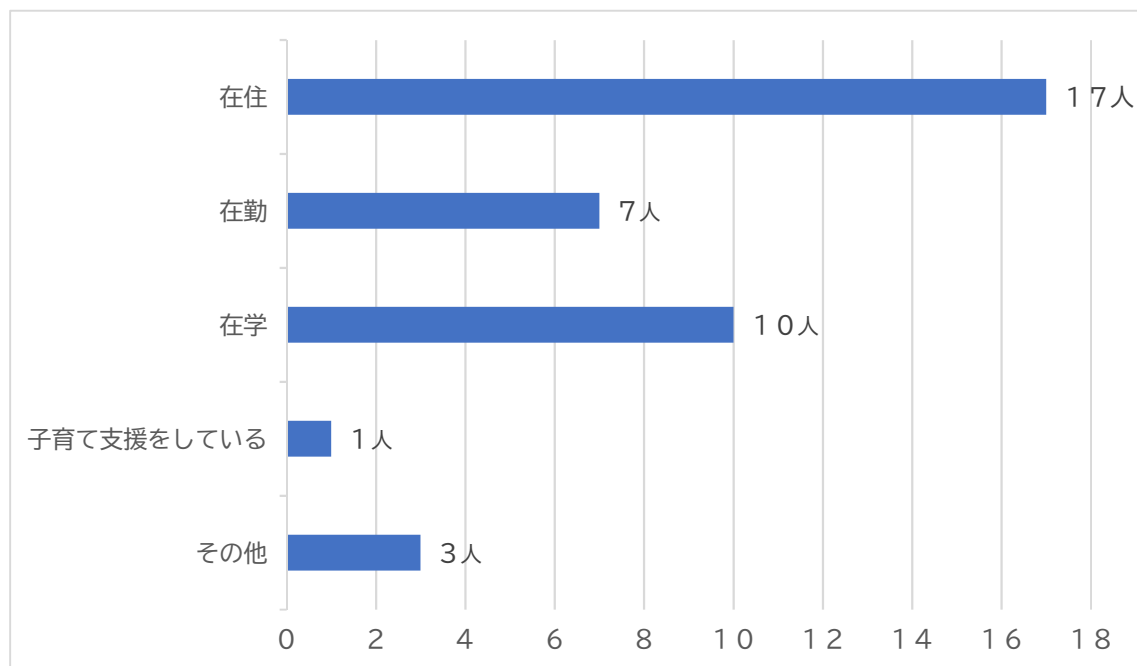
*性別



*年代

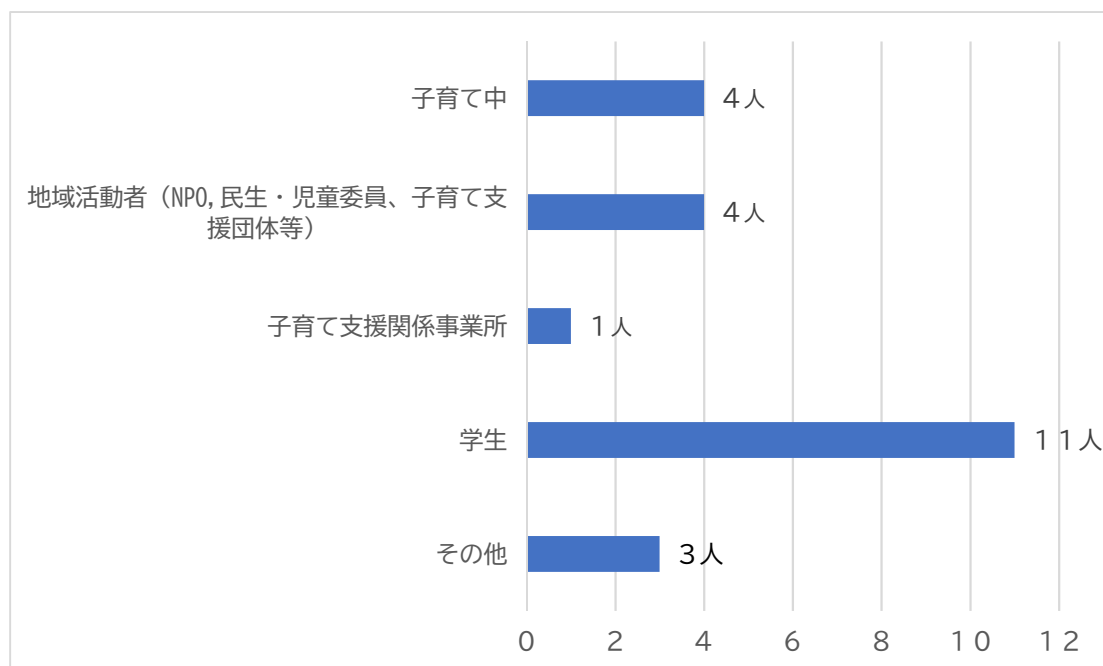


＊港区とのかかわり（複数回答可）



その他：区内の保育園勤務

＊あなたの状況は（複数回答可）



1 1) 本事業に対する感想、ご意見、要望等ご自由にご記入ください。

- とても楽しかったです。
- 全然違う世代の人と話せて楽しかったです。
- この様に毎年続けてくださることで、楽しみです、何かのお役に立てたらとも思います。本当に今年もありがとうございます。
- 区民の声が施策につながることで、関心を持ってくれる人が増え、自分事として取り組む人が増えたら良いなと思います。応援しています。
- いろいろな意見を取り入れられてみんなで楽しく話せました。
またあったら来てみたいと思います。
- とても良い取組だと感じましたが、もう少し現状のイベント等について紹介した後に話し合いを始めたら改善点などが明確になりやすいかと思います。
- いつもとは違う雰囲気の方々とお話ができて、とても楽しかったです。私の意見と同じ人や違う人がいて、新しい視点ができました。ありがとうございました。
- あまり無い機会だったので、良い経験になりました。
- とても素晴らしい取組だと思います。もう少し男性比率を高めることが必要だと思います。
- 食事をしながら話すともっと話せると思います。
- 学生さん達の意見を聞けて大変良かったです。行動力がある人が多く嬉しかったです。

港区子ども・おとな・地域みなトーク事業
来年も続きます！

皆様のご参加をお待ちしております！

